

子どもも職員も、安心して自己 発揮できる学校・学級づくり ～「3つのH」を大切にした 積極的生徒指導～



1学期の前半は、不登校傾向や飛び出し事象の増加が見られ、休み時間や登下校等学校生活全般での規律の乱れが目立ち、学校全体でも授業に集中できない子どもたちの様子があった。

これらは、教室や学校に居場所を見い出せていない子どもたちの「SOSのサイン」であり、子どもも職員も落ち着かない毎日が続いていた。

そこで、まずは学級・学校全体の雰囲気改善に取り組み、安全・安心な居心地の良い環境を整えることが大切であると考えた。学習指導と生徒指導の一体化の視点に立ち、第一に授業改善に取り組み、安心感の中で「わかる・できる」学習体験を重ね、子どもが意欲的に学びに向かえる雰囲気づくりを進めた。



【大切にしたこと】

- ①教師が全員で一致して取り組む意識改革
- ②教師の資質・能力向上
- ③3つのH「ほめる・はげます・広げる」を意識
- ④担任が一人で抱えることのないよう学校全体で子どもたちを支える取組を進めること。



安心できる居場所づくり

- ・学級経営と授業づくり
楽しい授業・わかる授業
- ・話し合い活動（重点研究）
聞くを大切に、認め合う
失敗してもよい学級
間違えてもよい学級
- ・別室の整備
人的配置・環境整備
利用のルールづくり

たてわり活動の展開

- ・特別活動で3Hを意識
- ・運動会でのたてわり競技
大縄とび「8の字チャレンジ」
- ・はげましの声かけ
失敗してもいいよ、大丈夫だよ
- ・高学年にリーダーの役割
- ・低学年からの憧れの存在
- ・3学期児童会主体の取組
きずな大縄

3つのHで 子どもを支える 職員を支える



個、学級、学校、それぞれの取組で少しずつ効果がでるよう一つずつ取り組む。

個の視点

ケース会議で状況を共有
方向性を確認

担任任せせず、必要に応じて関係機関とも連携して学校全体で支える

学級

学習指導と生徒指導の一体化の視点での授業改善

一人一人の児童が安心して学ぶことのできる授業・活動を支える

学校

特別活動「たてわり班遊び」の意図的な取組

児童会本部役員等、子どもの主体的な活動を支える

「生徒指導の4つの視点を意識した授業」で大切にしたいこと

自己存在感
の感受

発言できる機会を増やす
話しやすい雰囲気づくり

自己決定の
場の提供

明確な仕事内容を提示して役割を与える
共感的に相手の意見を聞けるようにする

共感的な人間
関係の育成

拍手⇒認められた感覚
多くの児童に声をかける

安全・安心な
風土の醸成

話し合いで全員の意見を大切にする

生徒指導の4つの視点を少し意識をするだけで、
学級の雰囲気は少しずつではあるが変化していく！

子どもの変化

- ◎飛び出し事象の減少（安心できる教室）
- ◎休み時間の様子（異年齢で遊ぶ）
- ◎学びのパスポートの数値の変化
- △学校のルールが守れない
- △登下校時の行動の乱れ

職員の变化

- ◎困り感を共有できる仲間に
- ◎次の一手を考えようとする意欲
- ◎ブロックを中心としたチーム力のアップ
- ◎研修での語り合い・アイスブレイク
- △取組のねらいや意図の共有の難しさ

自分らしさの発揮

心理的安全性

	自分らしさの発揮						心理的安全性					
	〈57〉自分よりよいところがあると思う。			〈58〉いつも自分らしくられる。			〈60〉普段の生活の中で、自分がみんなと違う意見や本音の気持ちを言っても、たれからも責められたり傷つけられたりする心配はない。			〈61〉普段の生活の中で、ミスや失敗をしても、自分の話を聞いてもらえる。		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年	4年	5年	6年
京都府	52.2	50.9	46.7	53.0	48.7	43.9	31.0	33.0	35.9	42.4	43.1	42.6
1学期	67.7	55.3	42.9	54.8	39.5	37.1	22.6	26.3	25.7	29.0	34.2	40.0
3学期	70.0	60.0	40.0	30.0	63.3	36.7	30.0	63.3	40.0	50.0	66.7	43.3

※「学びのパスポート」質問項目より抜粋 「当てはまる」と回答したものを比較。赤字は数値が高い方。